

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201733		
法人名	医療法人 平成会		
事業所名	グループホーム ひまわりの家 三田		
所在地	岡山県倉敷市三田124番地1		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390201733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390201733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 9 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務よりも入居者の安心・安全を第一に考え行動している。入居者には出来ることを継続して頂き、本人のペースに合わせた生活をサポート出来るように努めている。  
ご家族様との連携もしっかりと図りこまめな情報交換を行い、入居者・家族共に安心して頂ける環境作りを目標にしている。  
また、感染予防策の徹底を図り、スタッフの日々の生活から十分な注意を払っています。  
現在は地域の方々との交流は十分には行えてはいないが、今後、信頼を得られるような施設にしていこう。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2021年7月より新しく母体が変わり、以前の施設より環境が変わって、コロナ対策から職員へのマスク着用、消毒などの気配りを主とし、理念に掲げられている清潔を施し、やっと落ち着いてきた。母体から抜擢されたホーム長と副ホーム長とのコンビネーションで、以前の母体のベテラン職員の考え方を新しい職員との考え方から関係性を高め、何でも話ができるように耳を傾けている姿が見受けられる。今後は、以前より信頼関係を高め、更に安心・安全をモットーに徹底を図り、理念の【親切・丁寧、清潔、スマイル】を実践していこうとしている。まだまだ納得できていないと両ホーム長は感じているが、実際は我々の目から見ると、やっている感が強く、向上心も感じる。2人のコンビネーションが融合したことで、スマイルを生み、地域に活かされるのも目前で、家族からの満足度アンケートも後押しをしている。施設として今後の発展や期待できる様子が、手に取れるように感じたのは言うまでもない。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一回事業所内で理念について勉強会を開催、意味や必要性について考える時間を設け話し合い、入居者に対し統一したケアを提供出来るように努めています。	経営理念は、リビングに掲示している。正・副ホーム長は、利用者と家族が安心して暮らせるようにしたいとの思いから、日々介護に奮闘している。職員は、親切・丁寧な対応やスマイルで過ごすことで利用者も笑顔で過ごす様子が見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為に開催できていない運営推進会議については、構成員の方に書面にて報告を行っている。地域の夏祭りにて子供神輿の休憩場所として場所提供を検討していたが、感染予防の為に実現はしなかった。	前法人の時から地域に根差していた施設が継続されている。気が付いた時に住民の方が声をかけてくれる関係が出来ている。コロナ終焉後には、子ども神輿の場所として提供したいと考えている。	官公庁などにも声をかけて、地域との関わりを広げてみてはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ感染予防で行えておらず書面のみでの報告になっているが、通常であれば、運営推進会議に構成員・家族の方に参加して頂き、認知症の実態を知ってもらうなど協力を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ感染予防の為に、書面での報告だが、通常であれば会議で、行事報告や、予定をお伝えし、構成員の意見や、ほかの事業所の意見を取り入れサービスの向上に努めている。法人グループの看護小規模多機能ホームの職員にも構成員として参加してもらい情報交換を行っている。	運営推進会議の開催はできていないが、書面にて報告している。以前の参加者は、民生委員、地域包括、看多機が参加していた。コロナの影響も考慮して分割開催を実施している。	コロナ終焉後に多くの人に運営推進会議に参加して頂けるように、今から視野を広げてみてはいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員として、地域包括支援センターの職員に入っている。現在は、会議の開催が難しい為、書面での報告にて情報共有を図っている。	地域包括支援センターの職員とは直接会う機会が多く、何でも話せる関係が形成されている。何かあれば情報の交換ができていて、職員間でも情報の共有ができ、納得がいくように職員も理解を深められる体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内では、身体拘束対策委員会を月1回開催し、指針の作成、定期的に見直しを行っている。また、事業所内で身体拘束の研修を年に2回以上行い、日々のケアでも、拘束になるような言動はないか等話し合いをおこなっている。	身体拘束はしない。交通量も多いので、安全面に留意して玄関のみ施錠している。前回の会議では、身体拘束の事案について話し合い、指導監査課に対応の仕方について教えて頂いた。在宅についての話も行ったこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のために、法人内では虐待防止対策委員会を月1回開催、指針の整備し、研修の実施に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットには該当者はいない。又開所1年に満たない為事業所内の勉強会としてはまだ開催できていないが、今後開催を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所での取り組みや、考え方・行事等を説明し理解を得ている。重度化や看取りについての対応方針についても契約時にはもちろん、その都度ご家族と相談し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関口には意見箱を設置し定期的に確認を行うようにしている。家族とは、出来るだけ情報交換を行い良い信頼関係を築けるように努力している。また、年に一回満足度アンケートを実施し集計した意見・要望についてはミーティングで話し合い事業所の反映に努めている。	家族には電話にて意見を聞き、利用者の様子や受診の確認をしている。家族アンケートを実施したところ、満足が多かった。利用者の日頃の様子を写真に撮り、送ったら家族に喜ばれた。利用者の好きな物を直接持って来てくれる家族もいて、その際に家庭の様子の話をすることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾け、意見が出た際にはなるべく早く解決しているが、すぐに解決が難しい問題に対しては、十分に意見交換をおこない迅速な解決に努めている。	何でも聞き入れる職員がいるので、他の職員の話題もしやすい。旧施設の職員とも連携が取れている。また、希望休の話合いができていて、休みが取りやすく、有給消化もできているから、家庭も安定している。家族からも後押ししてくれやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職員面談を年1回実施し、各職員の実績評価を行うとともに、就業状況・希望等を確認し、快適に勤務できるよう努めている。その他、事業所内でも随時面談等実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを目的として、毎月事業所内で勉強会を実施している。内容は、接遇マナーや認知症ケア・介護技術等、様々である。また、外部研修への参加など法人でのフォローも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修への参加を促し、勉強の機会の確保を行っている。グループ内でのスタッフ交流や情報交換も実施し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では、本人と心地よい距離を保ちながら、入居前提の堅苦しい話ではなく、まず本人の気持ちを和らげ、また施設内でも本人が穏やかに生活を送って頂けるように環境・関係を築いていけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を重視しながらも、事業所としての思いも伝え、双方が歩み寄りながら、良い関係作りに勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状態や思いを事業所だけで抱え込むのではなく、法人内の各事業所と連携を取ること、その時のご本人に適したサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と関わるなかで、思いや訴えをくみとり傾聴することで、共に生きていけると安心して頂ける関係を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ感染対策で、十分な面会は行っていないが、電話等で、日頃の生活状態を細かくお伝えし情報交換に努め、共に本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ感染防止の為実施できていないが、通常であれば、お祭りなどの行事には家族にも参加を促している。また、地域の保育園や小学校との交流も図り、地域・家族ともつながりを持てるように努めている。	広報誌を郵送して馴染みの関係継続に努めている。施設内散歩で、歩道の花を見て「今日は咲いているね」と指差す光景もしばしば。施設内に入る鳥の数を数えて「今日な少ないな」と寂しがったり、「一緒に見に来られ」と誘い、さえずりの中で盛り上がる。訪問美容師とは、話が尽きない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を職員全員が把握し、配席を考慮したり、細かい感情の変化にも気づけるようにし、又、トラブル等にならないよう注意深く見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の介護老人保健施設に入所された場合は、入所先のスタッフに様子を尋ねるなどして関係が継続できるように法人内でコミュニケーションを取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、今後の生活に関する希望等も出来る限り確認している。又、入居後も日々の関りの中で、本人の思い等を理解できるように取り組んでいる。その中で得た情報はスタッフ間で共有し統一したケアが提供できるように取り組んでいる。	話さない人には、家族から聞き取ったり、単語から推察したりしている。歩行練習中、外の花を眺めている時に、ちょっとした意見が出やすい。家に帰れないと不安になった人に、家族が持ってきたジュースを召し上がって頂いたら、笑みがほころび、「カニを食べたい」と語る利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には今までの生活歴や趣味等の確認も行い把握に努めている。これまでの生活を尊重し、理解した上で、得た情報をケアにいかせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や、身体状態を把握し、他のスタッフとも共有する為に申し送りノート等に記録を残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月ごと、又は状態が変わったときにモニタリングを実施し、ケアプランを見直しするが、その際には本人の要望を確認したり、職員の意見を反映させ、本人にとってより良い介護計画書になるよう努めている。	介護計画は、入居時、1ヶ月、6ヶ月ごとに見直しをし、状態の変化があればその都度変更している。モニタリングは、何かあればその都度実施し、ケアプランに役立てている。ケアマネと職員でカンファレンスを開いて、誰でもわかるようにガラス張り、相談できる関係も築けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日行っている。また、申し送りノートを活用することにより、その日の出来事や入居者の状態を情報として共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望の変化や、家族の要望に対し臨機応変に支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に構成員や、地域包括支援センターの職員が参加することで、地域の色々な情報交換をすることができ、お互い良い関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、法人内のクリニックより訪問診療に来ていただいている。開所以前からの入居者については、それぞれのかかりつけ医を継続していただいている。その他の専門外来が必要な際は、基本的にはご家族送迎にて受診していただいている。	母体が病院なので、ほとんどの方がかかりつけ医から提携医に転医され安心している。かかりつけ医をそのまま引き継いでいる人もいる。他科への受診は、基本は家族が連れて行くが、現在はコロナの関係もあり、職員が連れて行くことが多い。医師とは何でも話せる関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を図り、週に一回の健康チェックを行うとともに、毎朝状態変化等を報告している。何かあれば相談し、指示をおおぎ異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や看護師との連携を密にし、入院が必要となった場合には、主治医から病院に日頃の様子などの情報を提供している。入院中には、ご家族と連絡をとり情報交換を行ない、退院に向けて支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所としての対応を入居時に説明し家族に同意を得ている。また、医師、看護師との連携を取りながら安心して生活を送って頂けるように努めている。	入居時に同意書を交わし、本人・家族の意見を確認している。母体が病院なので、医療体制の関係からターミナルは実施しておらず、老健に移動で賄っている。看取り期に差し掛かった場合は、多く顔を合わせ、できるだけ一緒に過ごす時間を設け、家族が寄り添う気持ちで、接するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での対応マニュアルを作成し、新しいスタッフには必ず説明し、十分な把握を促している。法人内でも勉強会を開催し、いざという時に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、中国電気保安協会職員の指導のもと、日中・夜間想定での避難訓練をおこなっている。実際の火災と同じようにベルを鳴らし通報し、避難誘導・安否確認を行っている。	年2回実施で火災と水害の訓練を昼夜想定で実施した。連絡網は事務所に、避難経路はキッチンに記している。施設内の歩きにくい場所もつまずかないように工夫して、避難経路を確保している。備蓄の賞味期限切れ間近の物は、食事に活用し、普段の食事の残りを備蓄としたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活空間であることを理解し、居室訪問時には必ずノックし声掛けをしてから入室する。また、個々の人格を尊重し本人の気持ちを酌んだ声掛けを心掛けている。	呼称は、苗字に「さん」付けをして敬い、居室に入る時はノックをして、「○○さん入りますよ～」と声をかけてから入るようにして、プライバシーを保っている。トイレ誘導や失敗した際には、恥ずかしい気持ちを与えないように、小声で周りに伝わらないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最初からスタッフが決めてしまうのではなく、その場、その場で入居者に決めてもらえるように努めている。決定が困難な方に対しては、選択肢を作り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や気分を考慮し、また、業務優先にならないよう本人のペースに合わせ一日をすごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	慣れ親しんだ衣類を持参して頂いたり、ご家族に依頼したりしている。整髪や衣服など本人様に合った身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の食事の好みの把握や盛り付け等を工夫したり、また季節にあったメニューを提供をすることで入居者に食事をたのしんで頂いている。	食事はケータリング。おせち料理、巻寿司、クリスマスにはオムライスなどの行事食で、眼を綻ばせている。おやつ作りで、ホットケーキを、夏にはスイカで、旬を楽しんで頂いている。使い慣れた湯呑とお箸を使用し、誠に見事な箸さばきで、安心感が増す食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を記録・把握し体調管理の目やすくしている。また、時間を決め水分の提供を行い脱水予防につとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の一日二回以上の口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持に努めている。また、昼食前には、入居者とスタッフで嚥下体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、個々に合ったケアを提供している。	トイレは1フロアに2か所。排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握している。声掛けのタイミングも個々に合わせ、パットやテープ止めなど身近でできる失敗がないように工夫している。残念な時には、利用者に対して「気にしないで大丈夫よ」という温かい言葉かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量・食事量を把握し、下剤の調整や体を動かすなどの支援を行ない予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては入居者の身体への負担を考慮し、週2回の実施している。本人の思いを尊重し無理に行う事はせず、また個々の希望に応じることが出来るように支援している。	週2回。湯舟に入れられない人には、シャワー浴と足浴で心を満たしている。入浴前に利用者に合わせて温度を調整し、快適に入って頂けるように工夫している。お風呂を嫌がる人には、「顔だけ洗おう」「濡れるから服を脱ごう」とさりげなく声かけを行い、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、体力面を考慮しながら日中でも個々に臥床する時間をもうけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセッティングの時や介助時等、数回に渡りチェックできる体制を取っている。1人ずつ確認しながら誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好きなことや興味の持てることを見つけ提供している。また、スタッフと一緒に洗濯物を干す・たたむなど生活の中で出来ることを役割として行っていたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染予防で行っていないが、通常であればご家族との外出、また保育園や小学校の運動会等への行事の参加をし、季節を感じてもらえるようしている。	施設に併設している庭の花に囲まれた小道を、気が向いたときに優雅に散歩している姿がある。利用者同士の部屋の行き来も増えたことにより、意気投合した利用者同士が誘い合い、お月様が綺麗な夜に肩を並べて眺め、開放的な心に導かれながら昔話にふけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方に対しては、ご家族とも情報交換を行った上で、スタッフが預かることはせず本人の意思を尊重している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	訴えがある時には、なるべく希望にそった対応が出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、雑誌をおいたり、一か月の予定などを記入したものを掲示している。また、室内の温度・清掃などに気を付け入居者が居心地よく生活が出来るように努めている。	畳の空間もあり、和の雰囲気味わいながら、そこで利用者が洗濯物を畳んだり、座って会話したりして過ごしている。利用者は、日中リビングで過ごす人が多く、居心地の良さを物語っている。手を振ったら元氣よく笑顔で手を振り返してくれた利用者の姿があった。そんな温かい空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性等を考慮し個々の配席を行うとともに、共有空間にソファを配置し、だれでも利用ができるようにし、1人1人が居心地よく過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と相談しながら配置等行い、また使い慣れた物や、本人・家族の写真を飾るなどし、本人が心地よく過ごせるように工夫をしている。	エアコン、カーテンが備え付けられ、空調は優しく、見守りに役立っている。雑誌を持ち込み、居室でゆったりと過ごせることで、安心感が高い。使い慣れたタンスやテレビを置いていて、小さな仏壇も持ち込まれ、毎日、手を合わせながら家族との面会を拝む姿が目に見えかて来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはネームプレートを設置することで、自分の居室であることが分かるように配慮している。また、目に付くところにカレンダー・時計を置くことで日時の把握を促している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390201733		
法人名	医療法人 平成会		
事業所名	グループホーム ひまわりの家 三田		
所在地	岡山県倉敷市三田124番地1		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390201733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390201733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 9 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

業務よりも入居者の安心・安全を第一に考え行動している。入居者には出来ることを継続して頂き、本人のペースに合わせた生活をサポート出来るように努めている。  
ご家族様との連携もしっかりと図りこまめな情報交換を行い、入居者・家族共に安心して頂ける環境作りを目標にしている。  
また、感染予防策の徹底を図り、スタッフの日々の生活から十分な注意を払っています。  
現在は地域の方々との交流は十分には行えてはいないが、今後、信頼を得られるような施設にしていこう。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

2021年7月より新しく母体が変わり、以前の施設より環境が変わって、コロナ対策から職員へのマスク着用、消毒などの気配りを主とし、理念に掲げられている清潔を施し、やっと落ち着いてきた。母体から抜擢されたホーム長と副ホーム長とのコンビネーションで、以前の母体のベテラン職員の考え方を新しい職員との考え方から関係性を高め、何でも話ができるように耳を傾けている姿が見受けられる。今後は、以前より信頼関係を高め、更に安心・安全をモットーに徹底を図り、理念の【親切・丁寧、清潔、スマイル】を実践していこうとしている。まだまだ納得できていないと両ホーム長は感じているが、実際は我々の目から見ると、やっている感が強く、向上心も感じる。2人のコンビネーションが融合したことで、スマイルを生み、地域に活かされるのも目前で、家族からの満足度アンケートも後押しをしている。施設として今後の発展や期待できる様子が、手に取れるように感じたのは言うまでもない。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一回事業所内で理念について勉強会を開催、意味や必要性について考える時間を設け話し合い、入居者に対し統一したケアを提供出来るように努めています。	経営理念は、リビングに掲示している。正・副ホーム長は、利用者と家族が安心して暮らせるようにしたいとの思いから、日々介護に奮闘している。職員は、親切・丁寧な対応やスマイルで過ごすことで利用者も笑顔で過ごす様子が見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為に開催できていない運営推進会議については、構成員の方に書面にて報告を行っている。地域の夏祭りにて子供神輿の休憩場所として場所提供を検討していたが、感染予防の為に実現はしなかった。	前法人の時から地域に根差していた施設が継続されている。気が付いた時に住民の方が声をかけてくれる関係が出来ている。コロナ終焉後には、子ども神輿の場所として提供したいと考えている。	官公庁などにも声をかけて、地域との関わりを広げてみてはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ感染予防で行えておらず書面のみでの報告になっているが、通常であれば、運営推進会議に構成員・家族の方に参加して頂き、認知症の実態を知ってもらうなど協力を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ感染予防の為に、書面での報告だが、通常であれば会議で、行事報告や、予定をお伝えし、構成員の意見や、ほかの事業所の意見を取り入れサービスの向上に努めている。法人グループの看護小規模多機能ホームの職員にも構成員として参加してもらい情報交換を行っている。	運営推進会議の開催はできていないが、書面にて報告している。以前の参加者は、民生委員、地域包括、看多機が参加していた。コロナの影響も考慮して分割開催を実施している。	コロナ終焉後に多くの人に運営推進会議に参加して頂けるように、今から視野を広げてみてはいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の構成員として、地域包括支援センターの職員に入っている。現在は、会議の開催が難しい為、書面での報告にて情報共有を図っている。	地域包括支援センターの職員とは直接会う機会が多く、何でも話せる関係が形成されている。何かあれば情報の交換ができていて、職員間でも情報の共有ができ、納得がいくように職員も理解を深められる体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内では、身体拘束対策委員会を月1回開催し、指針の作成、定期的に見直しを行っている。また、事業所内で身体拘束の研修を年に2回以上行い、日々のケアでも、拘束になるような言動はないか等話し合いをおこなっている。	身体拘束はしない。交通量も多いので、安全面に留意して玄関のみ施錠している。前回の会議では、身体拘束の事案について話し合い、指導監査課に対応の仕方について教えて頂いた。在宅についての話も行ったこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のために、法人内では虐待防止対策委員会を月1回開催、指針の整備し、研修の実施に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とされた利用者もおられ、利用に至ったケースもある。開所1年に満たない為事業所内の為、勉強会としてはまだ開催できていないが、今後開催を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所での取り組みや、考え方・行事等を説明し理解を得ている。重度化や看取りについての対応方針についても契約時にはもちろん、その都度ご家族と相談し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関口には意見箱を設置し定期的に確認を行うようにしている。家族とは、出来るだけ情報交換を行い良い信頼関係を築けるように努力している。また、年に一回満足度アンケートを実施し集計した意見・要望についてはミーティングで話し合い事業所の反映に努めている。	家族には電話にて意見を聞き、利用者の様子や受診の確認をしている。家族アンケートを実施したところ、満足が多かった。利用者の日頃の様子を写真に撮り、送ったら家族に喜ばれた。利用者の好きな物を直接持って来てくれる家族もいて、その際に家庭の様子の話をすることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾け、意見が出た際にはなるべく早く解決しているが、すぐに解決が難しい問題に対しては、十分に意見交換をおこない迅速な解決に努めている。	何でも聞き入れる職員がいるので、他の職員の話題もしやすい。旧施設の職員とも連携が取れている。また、希望休の話合いができていたので、休みが取りやすく、有給消化もできているから、家庭も安定している。家族からも後押ししてくれやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職員面談を年1回実施し、各職員の実績評価を行うとともに、就業状況・希望等を確認し、快適に勤務できるよう努めている。その他、事業所内でも随時面談等実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを目的として、毎月事業所内で勉強会を実施している。内容は、接遇マナーや認知症ケア・介護技術等、様々である。また、外部研修への参加など法人でのフォローも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修への参加を促し、勉強の機会の確保を行っている。グループ内でのスタッフ交流や情報交換も実施し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では、本人と心地よい距離を保ちながら、入居前提の堅苦しい話ではなく、まず本人の気持ちを和らげ、また施設内でも本人が穏やかに生活を送って頂けるように環境・関係を築いていけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を重視しながらも、事業所としての思いも伝え、双方が歩み寄りながら、良い関係作りに勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状態や思いを事業所だけで抱え込むのではなく、法人内の各事業所と連携を取ること、その時のご本人に適したサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と関わるなかで、思いや訴えをくみとり傾聴することで、共に生きていると安心して頂ける関係を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ感染対策で、十分な面会は行っていないが、電話等で、日頃の生活状態を細かくお伝えし情報交換に努め、共に本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ感染防止の為実施できていないが、通常であれば、お祭りなどの行事には家族にも参加を促している。また、地域の保育園や小学校との交流も図り、地域・家族ともつながりを持てるように努めている。	広報誌を郵送して馴染みの関係継続に努めている。施設内散歩で、歩道の花を見て「今日は咲いているね」と指差す光景もしばしば。施設内に入る鳥の数を数えて「今日な少ないな」と寂しがったり、「一緒に見に来られ」と誘い、さえずりの中で盛り上がる。訪問美容師とは、話が尽きない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を職員全員が把握し、配席を考慮したり、細かい感情の変化にも気づけるようにし、又、トラブル等にならないよう注意深く見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の介護老人保健施設に入所された場合は、入所先のスタッフに様子を尋ねるなどして関係が継続できるように法人内でコミュニケーションを取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、今後の生活に関する希望等も出来る限り確認している。又、入居後も日々の関りの中で、本人の思い等を理解できるように取り組んでいる。その中で得た情報はスタッフ間で共有し統一したケアが提供できるように取り組んでいる。	話さない人には、家族から聞き取ったり、単語から推察したりしている。歩行練習中、外の花を眺めている時に、ちょっとした意見が出やすい。家に帰れないと不安になった人に、家族が持ってきたジュースを召し上がって頂いたら、笑みがほころび、「カニを食べたい」と語る利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には今までの生活歴や趣味等の確認も行い把握に努めている。これまでの生活を尊重し、理解した上で、得た情報をケアにいかせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や、身体状態を把握し、他のスタッフとも共有する為に申し送りノート等に記録を残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月ごと、又は状態が変わったときにモニタリングを実施し、ケアプランを見直すのが、その際には本人の要望を確認したり、職員の意見を反映させ、本人にとってより良い介護計画書になるよう努めている。	介護計画は、入居時、1ヶ月、6ヶ月ごとに見直しをし、状態の変化があればその都度変更している。モニタリングは、何かあればその都度実施し、ケアプランに役立てている。ケアマネと職員でカンファレンスを開いて、誰でもわかるようにガラス張り、相談できる関係も築けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日行っている。また、申し送りノートを活用することにより、その日の出来事や入居者の状態を情報として共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望の変化や、家族の要望に対し臨機応変に支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に構成員や、地域包括支援センターの職員が参加することで、地域の色々な情報交換をすることができ、お互い良い関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、法人内のクリニックより訪問診療に来ていただいている。開所以前からの入居者については、それぞれのかかりつけ医を継続していただいている。その他の専門外来が必要な際は、基本的にはご家族送迎にて受診していただいている。	母体が病院なので、ほとんどの方がかかりつけ医から提携医に転医され安心している。かかりつけ医をそのまま引き継いでいる人もいる。他科への受診は、基本は家族が連れて行くが、現在はコロナの関係もあり、職員が連れて行くことが多い。医師とは何でも話せる関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を図り、週に一回の健康チェックを行うとともに、毎朝状態変化等を報告している。何かあれば相談し、指示をおおぎ異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や看護師との連携を密にし、入院が必要となった場合には、主治医から病院に日頃の様子などの情報を提供している。入院中には、ご家族と連絡をとり情報交換を行ない、退院に向けて支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所としての対応を入居時に説明し家族に同意を得ている。また、医師、看護師との連携を取りながら安心して生活を送って頂けるように努めている。	入居時に同意書を交わし、本人・家族の意見を確認している。母体が病院なので、医療体制の関係からターミナルは実施しておらず、老健に移動で賄っている。看取り期に差し掛かった場合は、多く顔を合わせ、できるだけ一緒に過ごす時間を設け、家族が寄り添う気持ちで、接するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での対応マニュアルを作成し、新しいスタッフには必ず説明し、十分な把握を促している。法人内でも勉強会を開催し、いざという時に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、中国電気保安協会職員の指導のもと、日中・夜間想定での避難訓練をおこなっている。実際の火災と同じようにベルを鳴らし通報し、避難誘導・安否確認を行っている。	年2回実施で火災と水害の訓練を昼夜想定で実施した。連絡網は事務所に、避難経路はキッチンに記している。施設内の歩きにくい場所もつまづかないように工夫して、避難経路を確保している。備蓄の賞味期限切れ間近の物は、食事に活用し、普段の食事の残りを備蓄としたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活空間であることを理解し、居室訪問時には必ずノックし声掛けをしてから入室する。また、個々の人格を尊重し本人の気持ちを酌んだ声掛けを心掛けている。	呼称は、苗字に「さん」付けをして敬意、居室に入る時はノックをして、「〇〇さん入りますよ～」と声をかけてから入るようにして、プライバシーを保っている。トイレ誘導や失敗した際には、恥ずかしい気持ちを与えないように、小声で周りに伝わらないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最初からスタッフが決めてしまうのではなく、その場、その場で入居者に決めてもらえるように努めている。決定が困難な方に対しては、選択肢を作り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や気分を考慮し、また、業務優先にならないよう本人のペースに合わせ一日をすごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	慣れ親しんだ衣類を持参して頂いたり、ご家族に依頼したりしている。整髪や衣服など本人様に合った身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の食事の好みの把握や盛り付け等を工夫したり、また季節にあったメニューを提供をすることで入居者に食事をたのしんで頂いている。	食事はケータリング。おせち料理、巻寿司、クリスマスにはオムライスなどの行事食で、眼を綻ばせている。おやつ作りで、ホットケーキを、夏にはスイカで、旬を楽しんで頂いている。使い慣れた湯呑とお箸を使用し、誠に見事な箸さばきで、安心感が増す食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を記録・把握し体調管理の目やすくしている。また、時間を決め水分の提供を行い脱水予防につとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の一日二回以上の口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持に努めている。また、昼食前には、入居者とスタッフで嚥下体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、個々に合ったケアを提供している。	トイレは1フロアに2か所。排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握している。声掛けのタイミングも個々に合わせ、パットやテープ止めなど身近でできる失敗がないように工夫している。残念な時には、利用者に対して「気にしないで大丈夫よ」という温かい言葉かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量・食事量を把握し、下剤の調整や体を動かすなどの支援を行ない予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては入居者の身体への負担を考慮し、週2回の実施している。本人の思いを尊重し無理に行う事はせず、また個々の希望に応じることが出来るように支援している。	週2回。湯舟に入れない人には、シャワー浴と足浴で心を満たしている。入浴前に利用者に合わせて温度を調整し、快適に入って頂けるように工夫している。お風呂を嫌がる人には、「顔だけ洗おう」「濡れるから服を脱ごう」とさりげなく声かけを行い、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、体力面を考慮しながら日中でも個々に臥床する時間をもうけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセッティングの時や介助時等、数回に渡りチェックできる体制を取っている。1人ずつ確認しながら誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好きなことや興味の持てることを見つけ提供している。また、スタッフと一緒に洗濯物を干す・たたむなど生活の中で出来ることを役割として行っていたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染予防で行っていないが、通常であればご家族との外出、また保育園や小学校の運動会等への行事の参加をし、季節を感じてもらえるようしている。	施設に併設している庭の花に囲まれた小道を、気が向いたときに優雅に散歩している姿がある。利用者同士の部屋の行き来も増えたことにより、意気投合した利用者同士が誘い合い、お月様が綺麗な夜に肩を並べて眺め、開放的な心に導かれながら昔話にふけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方に対しては、ご家族とも情報交換を行った上で、スタッフが預かることはせず本人の意思を尊重している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	訴えがある時には、なるべく希望にそった対応が出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、雑誌をおいたり、一か月の予定などを記入したものを掲示している。また、室内の温度・清掃などに気を付け入居者が居心地よく生活が出来るように努めている。	畳の空間もあり、和の雰囲気味わいながら、そこで利用者が洗濯物を畳んだり、座って会話したりして過ごしている。利用者は、日中リビングで過ごす人が多く、居心地の良さを物語っている。手を振ったら元氣よく笑顔で手を振り返してくれた利用者の姿があった。そんな温かい空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性等を考慮し個々の配席を行うとともに、共有空間にソファを配置し、だれでも利用ができるようにし、1人1人が居心地よく過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と相談しながら配置等行い、また使い慣れた物や、本人・家族の写真を飾るなどし、本人が心地よく過ごせるように工夫をしている。	エアコン、カーテンが備え付けられ、空調は優しく、見守りに役立っている。雑誌を持ち込み、居室でゆったりと過ごせることで、安心感が高い。使い慣れたタンスやテレビを置いていて、小さな仏壇も持ち込まれ、毎日、手を合わせながら家族との面会を拝む姿が目に見えかて来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはネームプレートを設置することで、自分の居室であることが分かるように配慮している。また、目に付くところにカレンダー・時計を置くことで日時の把握を促している。		